

講座名	森林環境教育「海辺の植物観察」		
開催日時	2021年 7月18日(日) 9時30分 ~ 12時		
開催場所	いすみ市 太東海浜植物群落	一般参加者	7名

活動概要

受託事業いすみ環境と文化のさとセンター主催「海辺の植物観察」です。参加者の皆さんはセンターに集合ののち、国指定天然記念物「太東海浜植物群落」へ移動して観察会が開催されました。センターでは、今から101年前の昨日、大正9年7月17日に指定を受けたこと、指定当初の群落の様子、指定後にその面積の9割が海中に没したことなど群落の歴史をふり返りました。また、下見の時に砂浜で見つけたガンギエイの卵殻や植物の種子などを見ていただき、砂浜に流れ着く植物や漂着物についても紹介しました。

気温が上がり、夏本番の晴れ渡った空のもと、現地へ移動して海辺の植物観察です。下見の時、まばらに花をつけていたスカシユリは、ここ1週間の陽気でもう満開の様相です。スカシユリの名前の由来、大きさの違う花被片、密標のことなどスカシユリだけで話題は多岐にわたりました。群落の周囲をぐるりとまわり、テリハノイバラ、ハマエノコロ、ボタンボウフウ、ラセイタソウ、ハマツメクサなどの海浜植物について、房総の方言や民間でどのように利用されてきたのかなど、海浜植物を身近に感じてもらえるような説明を心がけました。

群落をひとまわりしてから夷隅川河口へ足を延ばし、満開のイワダレソウ、アメリカネナシカズラ、ハマゴウを見ました。観察会の時はいつもつぼみしか見られないハマボウもとてもきれいな花を咲かせていましたが、時間の都合で遠くから見るにとどまりました。

夏の日差しのもと、心地よい潮風を感じながら浜辺を色どる海浜植物を観察できた半日となりました。



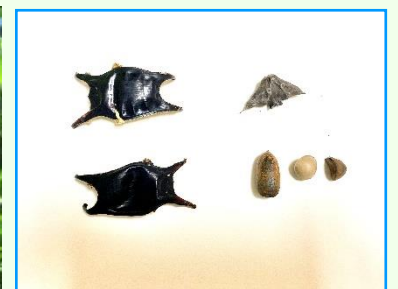
国指定天然記念物
太東海浜植物群落



スカシユリ



ハマボウ



ガンギエイの卵殻と漂着物

FIC 講師 望月力智 齊藤美穂子